

繁殖牛経営指導から繋げるオリーブ牛の生産振興

■ 西讃和牛改良組合 ■

(西讃農業改良普及センター 宮崎勝、岸本靖、○植松侑哉)

●対象の概要

香川県独自のブランド牛であるオリーブ牛は、讃岐牛の出荷前一定期間、飼料の中にオリーブ飼料を混用して与えたもので、「脂質が後味爽やか」で「肉の赤みが美しく、やわらかくて美味しい」と市場でも高評価を得ていることから、県をあげてブランド化を推進している。

西讃地域におけるオリーブ牛の出荷頭数は、年々増加しており、平成30年度（オリーブ年度は2月～1月）は、過去最多の1,135頭となった。

一方、肉用牛経営を取り巻く環境としては、子牛価格の高騰などの影響から、肥育牛経営の素牛購入に掛かる負担が重くなっており、西讃地域では、新たに繁殖牛経営を開始する肥育経営が増えている。

●課題を取り上げた理由

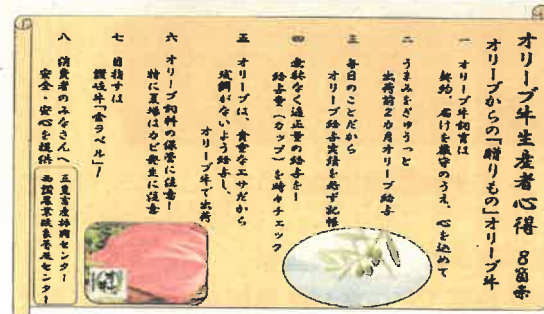
西讃地域では、以前から繁殖・肥育一貫経営に取り組む農家は見られたが、高齢化などの理由から廃業する農家も多く、新たに繁殖牛経営を開始する場合、技術面での不安があった。

そこで、普及センターでは、JAや家畜保健衛生所など関係機関と連携し、平成26年8月に管内繁殖牛経営全戸（30年度現在30戸）が参加した「西讃和牛改良組合（以下改良組合という）」を設立し、活動支援を行っている。

●普及活動の経過

1 オリーブ生産者の意識啓発

普及センターでは、オリーブ牛生産振興の足掛かりに西讃地域独自の取り組みとして、オリーブ牛の認定要件である飼料給与法や飼養管理のルールについて、わかりやすく示した「オリーブ牛生産者心得」（写真1）を作成し、牛舎に掲示することで農家の意識啓発を図った。



オリーブ牛生産者心得

2 西讃和牛改良組合活動の支援

繁殖牛経営の支援に力を入れるべく、県農協と連携した県単独補助事業を活用した優良繁殖雌牛の導入や家畜保健衛生所と連携したワクチン接種プログラムの作成による事故防止対策などを支援した。

3 各種研修会の開催

繁殖雌牛の資質向上を図るため、全国和牛登録協会の「高等登録」の現地研修や、(一社)家畜改良事業団岡山種雄牛センターによる「ゲノミック評価を活用した肉用牛の改良について」など先進情報の研修会を行った。



研修会の様子

4 子牛の体型測定の実施

西讃地域では新たに繁殖牛経営を開始する農家が多かったため、組合活動の一環として子牛を子牛市場へ出荷する際、体型（体高、胸囲、体重）を測定し、その結果を全国和牛登録協会の和牛標準発育値と比較し、子牛の発育状態を確認することで個々の管理技術の向上に努めた。



子牛体型測定の様子

5 繁殖管理システムの実証

繁殖牛経営では、繁殖記録はカレンダーに書き、販売データは別の冊子など繁殖記録や血統データ等の扱いが煩雑であったため、繁殖管理台帳の統一様式を作成し、普及に努めた。

また、この台帳をさらに発展させた繁殖管理システムの導入実証を開始している。この繁殖管理システムは、兵庫県丹波普及センターが開発した繁殖管理技術改善のためのツール「丹波ミニマム」であり、4つの項目（①母牛名、②個体識別番号、③人工授精日、④分娩日）を入力することで繁殖管理をグラフや表などに“見える化”することができる。

●普及活動の成果

1 子牛の体型測定の実績

子牛体型測定の結果を解析すると、飼養技術による子牛の生育の違いに加えて、交配種雄牛による違い、相性の良い組合せが判明したため、家畜改良事業団の協力のもと、育種価を加味した最適な交配組み合わせの資料を作成、組合員に配布し、遺伝的改良の向上を図った。

平成30年度から新たに始めた繁殖・肥育一貫経営の体型測定は、一貫経営では子牛を出荷せず自家肥育しており、子牛の生育を体型データで評価する機会がなかったため、子牛体型測定を通して、その後の肥育飼養管理の確認にもなると農家から期待されている。

2 繁殖管理システムの実証

実証では、現場指導者と農家が農場の状態を情報共有することで、効率的な繁殖牛管理の改善に繋がることが期待されるため、繁殖農家2戸において実証中である。

No.	計画分娩日	授精回数		授精回数		授精回数		授精回数	
		第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
1	2018/05/3	18/05/09							
2	2018/05/3								
3	2018/05/21			18/05/21					
4	2017/10/1	18/03/04							
5	2018/02/5	18/10/31						18/08/13	
6	2016/05/24	18/03/30			18/06/02				18/08/13
7	2018/09/2			18/09/02					
8	2018/01/7		18/06/17						

図1 管理システムによる人工授精確認表

3 高等登録牛頭数の増加

「高等登録牛」は、最も高次の登録区分であり、地域で和牛改良の中核になる繁殖牛であるが、平成30年度現在、県下14頭の高等登録牛のうち西讃から10頭が登録されている。さらには、新たに4頭が高等登録候補牛となっており、地域で優秀な牛群が形成されてきている。

4 気運の醸成

平成29年度宮城県で開催された「第11回全国和牛能力共進会」において、管内から出品されたオリーブ牛が、特別賞「脂肪の質賞」において全国一に輝いたことから、地域内では、良い牛を作ろうという気運が高まっており、次期全共に向け、遺伝子検査を取り入れたゲノミック評価の取組を検討中である。

●今後の普及活動の課題

1 繁殖成績の向上

繁殖雌牛の分娩間隔を短縮するため、一番の課題である発情の早期発見の補助を行うICT機器の導入支援や繁殖管理システムを利用した繁殖牛の飼養管理技術指導の改善を図る。

2 肥育農家への支援

オリーブ牛生産拡大のため、新たに繁殖牛経営を開始した農家への支援だけでなく、肥育牛経営に対して、繁殖部門を導入した一貫経営を推進することや、クラスター事業などを活用した機械装備の充実を支援する。

3 ゲノミック評価の導入

また、来年度から始まる、県単独補助事業の遺伝子評価事業によって、繁殖雌牛の「ゲノミック評価」を行い、組合内での調整交配を進めることで、牛群全体の能力向上に努める。